

日语阅读：永田飞撒柳泽豆 PDF转换可能丢失图片或格式，  
建议阅读原文

[https://www.100test.com/kao\\_ti2020/213/2021\\_2022\\_\\_E6\\_97\\_A5\\_E8\\_AF\\_AD\\_E9\\_98\\_85\\_E8\\_c105\\_213593.htm](https://www.100test.com/kao_ti2020/213/2021_2022__E6_97_A5_E8_AF_AD_E9_98_85_E8_c105_213593.htm) 丹念に拾い集めたつもりなのに、足のでぐしゃりと音がした。分の夜にまいた豆がしばらくは家のあちらこちらに残っているのは年のことで、の春はいつも足のかられる本想拾得仔细点，但仍听见脚下啪嚓啪嚓地响着。每年，立春前夕撒下的豆子，有好一阵子，仍会留在家里的每个角落，日历上的春天总是先从足下来访。豆まきは鬼に豆を数えさせ、力を衰えさせる式であると、博物学者の南方熊楠（みなかた?くまぐす）が「十二支考」にいていた。まいた後は攻守ところをえ、人さまが拾うのに目を凝らし、少しばかり鬼の分を味わうらしい“撒豆子”是让鬼怪计数豆粒，令其视力衰退的一种仪式。博物学者南方熊楠在《十二支考》中写道。但豆子撒落后，攻防便易位了，这下轮到撒豆人要聚精会神地把豆子捡起，稍稍体验一下做鬼的感觉。政治家、政党にとって鬼より怖いのは有者である。じっとつめられては困るもの、そっとしておきたいものがあれば、有者の目をくらまし、力を消耗させるために、豆をまくこともあるだろう对政治家和政党而言，比鬼还可怕的是选民。若有窥视不得、想要悄悄隐瞒的东西，他们有时也会撒些豆子，以蒙蔽选民的眼睛，耗其视力吧。柳伯夫厚生相の述べた「む械」、それ自体は弁の余地のない、れもない暴言だが、永田町から日来する大量の“柳豆”を身に浴びていると、「られて困るものが、ほかにお有りですか」とねたくもなる厚生大臣柳伯夫

所说的“生育机器”，其本身就是没有辩解余地、事实确凿的粗言狂语，但是，每当被永田町连日来撒出的大量“柳豆”打在身上时，就不由得产生了一个疑问：“（永田町）是否另有见不得人的事情？”。政治金の理で（すね）にをもつ政治家は、世の目が柳氏に集中し、ほっとしているだろう。勉不足から感情に走った米批判を口にし、日米をぎくしゃくさせた安全保障担当僚なども、安堵（あんど）にいない人们的注意力都集中在柳身上，因此，政治金处理问题上心怀鬼胎的政治家应是长长地吁了一口气了吧。把由知识浅薄到偏重感情的对美批判挂在嘴上，使日美关系受阻的负责安全保障的大臣之流的，也一定属于“放心一族”了。まかれた豆はきちんと数える。同に、それのみにを消耗させぬよう、用心は怠るまい。足のをいつつ、目を差す春である。撒落的豆子，要好好地计数。同时，不要麻痹大意，以免把视力全部消耗在豆子上。这是一个需要一边赶开脚下豆子，一边滴滴眼药水的春天。100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问 [www.100test.com](http://www.100test.com)